

〔B類書道コース 対象〕

書道実技・書道理論 解答例

令和5年度
一般選抜前期
私費外国人
帰国生

I 次の問題の解答を別紙解答用紙に記せ。解答に際しては、鉛筆を使用すること。硬筆による書写力も合わせて評価する。

問1 図版の作品をみて、作品名、筆者、時代背景、書かれている内容、書道史の中での位置づけについて述べよ。また、自分がこの古典作品を臨書する際に、気をつけることについても述べよ。

〈解答のポイント〉

- ・作品名Ⅱ〈風信帖〉、筆者Ⅱ空海であることが記されていること。
- ・平安時代、弘仁初期に書かれた、空海から最澄に宛てた手紙であること、中国の唐時代や日本の奈良時代から平安時代初期にかけて盛行した王羲之を基盤とする中国書法によって書かれていること、空海がのちに三筆の一人に数えられるようになることなどに触れていること。
- ・臨書する際の留意点として、字形や筆法の特徴などについて触れていること。

問2 次の(1)～(3)の語について説明せよ。

- (1) 甲骨文
- (2) 和様
- (3) 執筆法

〈解答のポイント〉

- (1) 甲骨文
  - ・甲骨文が、おもに中国の殷時代後期に用いられた文字で、王室の祭祀、戦争、農作物の豊凶、狩猟などについて、亀甲や獣骨を用いて占い、その結果を甲骨や獣骨に鋭い刃物で刻んだものであること、また、文字の大きさが小さく、線は細く、直線的であること、象形文字のほか、会意、形声、仮借による文字もあり、文字としてかなり発達した段階のものであることなどにふれていること。

(2) 和様

・のちに三跡と称される平安時代中期に活躍した小野道風、藤原佐理、藤原行成らによって完成された、中国書法をおだやかかつ流麗に表現した書法、書風であることを理解し、説明していること。また、和様の成立の要因のひとつとして文化の国風化に関連つけて記述していること。

(3) 執筆法

・執筆法が腕法(筆の構え方)と指法(筆の持ち方)からなることを理解していること。また、筆の構え方の代表的な例として、懸腕法、提腕法、枕腕法の三つがあげられていること。筆の持ち方の代表的な例として、双鉤法、単鉤法の二つがあげられていること。